

「コレクションづくりの実際」

嶋田 学（奈良大学 文学部 司書課程）

0. 本日のねらい

受講生のみなさんの日常業務としての資料選定（図書選択）における課題を共有し、その解決策やスキルアップのための手法を検討するとともに、成果としてのコレクションづくりのあり方を探ります。

W1. 事前課題「勤務している図書館の蔵書構成上、あるいは選書における課題」（20分間）

→グループメンバーに、2分間程度で説明をしてください。その後、メンバー相互で、課題に関する感想や共感したことなどについて、意見交換を10分程度してください。
（事前課題については、所属図書館とその上位組織について概要をまとめて頂いた）

◎事前課題の意図について ～受講生のみなさんに～

- ・所属図書館を客観的に振り返って頂くこと
- ・所属上位組織を客観的に振り返って頂くこと
→ 所属図書館の経営環境の俯瞰
- ・選書や蔵書構成について、課題を整理して「評価」して頂くこと
- ・意見交換によってその評価を相対化すること

所属図書館について

- ・インプットを知る
予算（資料費）、人員、施設、連携、図書館費の対一般会計比
- ・アウトプットを知る
利用統計（貸出、利用人数、来館者、予約等、参考業務、企画事業）
連携先（市民、行政各部局、民間団体）

所属上位組織について

- ・組織政策を知る
- ・財政を知る
- ・文化的特性を知る
- ・地理特性を知る
- ・産業特性を知る
- ・組織文化を知る

選書、蔵書構成についての課題

課題の性質の分析

- ・財政課題→予算不足、リクエスト購入による圧迫
- ・組織マネジメント課題→組織的選書の不在、人材育成の不在
- ・資料収集、蔵書構築に関する政策の不在
→ 蔵書評価軸とサービス評価軸の相克、「利用者ニーズと蔵書構成とのバランス」

1. 資料選定の実際

PDC Aサイクルというが、「P l a n」（計画）の前には、状況把握・評価（アセスメント）が重要。

1) 選定以前の準備

◎利用状況調査

予算要求前に、資料種別の利用状況を前年対比（調査月までの数値）で調査する。また、リクエスト購入状況も確認し、利用者ニーズの動向を探る。可能であれば、分類別貸出回転率をNDC 3桁ベースで調査する。

◎資料状態調査

資料状態を確認し、買い替え図書、類書補充等の見通しを立てる。

◎予算要求

利用状況調査をもとに、資料種別（図書[児童・一般・参考]、視聴覚資料[DVD、CD]、雑誌等）に、購入冊数計画を立て、これを積算根拠として予算要求をする。

◎選書計画

予算の内示が出たら、詳細な選書計画を立てる。区分としては、定例選書分（週毎選書）、リクエスト発注分、書店、取次直接選書分、学校図書館支援分等が考えられる。また、当該自治体の各種政策ごとの事業に合わせた関連図書の購入計画、図書館や他の社会教育施設（美術館、博物館）の展示計画を見据えた予算確保も想定する。

2) 資料選定

◎見計らい選書

現物を見て選定できる貴重な機会。書籍搬送にコストがかかっていることを十分意識して、見計らいを活用する。ただし、現物を見ることで、図書をよりチェック出来たというバイアスがかかる。本当に必要な資料か、他の職員との意見交換を怠らないこと。

・児童書

一部を除いて時宜性が高くないので、現物をじっくり確認する。返品は、一般書と同じタイミングでなくてもよく、児童書の4週分の非購入をまとめて返品するということもあり得る。

・一般書

各主題の資料は、入門書、概説書、実務・実用書、学術書等、それぞれの特性を意識して、索引、参考文献、コラムによる話題提供の豊富さなど、子細に検討する。類書が少ない分野の図書の配本があっても、内容本位で検討し、安易に選定しない。他の出版社で適書がないか、調査をすることを厭わない。なお、購入しない資料についても、出版社、著者、シリーズ、選書等の出版形態等、今後の選書に生きる情報収集をする。また、毎週の選書は、当該館のコレクションづくりという連続的営為の一場面である。その都度の見計らい図書の範囲で適書と安易に判断せず、大局的な検討をする。例えば、価格が高いというだけで、選定から漏らすことが続けば、当該図書館の主題図書は、入門書か概説書の類だけになってしまう。（実際、そういう図書館を目にする）

◎リスト選書

書誌事項からの選定は限られた情報からの検討になるので、適宜インターネット情報や出版社目録、書評等を参考にして選書する。書影、著者紹介、解題付きの新刊案内は、重宝する反面、すべてがそのスタイルで紹介されていない分、分かりやすい紹介図書を選ぶ傾

向が高くなるので注意が必要である。

◎選書会議

組織や勤務形態によって、当該館のメンバー全員で選書会議を持つことは、相当困難になっているかもしれない。しかし、図書館の蔵書を決定するという職務は、司書の専門性の最たるものである。他の業務との優先順位を検討し、可能な範囲で選書会議を行うべきである。選書会議では、選定理由として、①当該書の必要性、②必要性を補足するための著者や主題概要の解説、③編集上の工夫、④出版社の特色、⑤利用の見込み、⑥蔵書構成上の位置づけ等、蔵書に加えたい理由を真摯に、そして情熱を込めて説明する。そして、その説明を聞いたメンバーも、忌憚のない意見を出し合うこと。こうしたコミュニケーションは、選書スキルのOJTとしても機能する。

◎書店、取次店、出張見計らい選書

厳しい出版状況から、定例の見計らい選書は難しく、仮にあったとしても配本はごく一部の出版物である。年に数度程度、最寄りの大型書店や可能であれば取次店などに出向き、多くの出版物を前に、現物で資料選定する時間を作りたい。また、出版社系の営業所が、出張見計らいをしてくれることがある。こうした機会も有効に利用したい。

3) リクエスト発注

リクエスト発注は、コレクションづくりのための資料選定かどうかという問い。

①リクエストを資料購入で応える理由

- ◎当該資料が、リクエスト当事者以外にも利用される見込みが想定される場合。
- ◎相互貸借が諸事情により困難な場合。（未所蔵、予約あり、新規提供期間制限）
- ◎当該資料の主題資料の類書がないか、僅かしかない場合。

②リクエストを資料購入によって応えない理由

- ◎当該資料が、当該館の蔵書構成、資料選定基準になじまない内容の場合。
- ◎類書がすでに相当数あり、これ以上増加させたくない場合。
- ◎リクエスト希望者以外に、当該資料の利用があまり想定できない場合。
- ◎絶版、品切れ等で入手できない場合。

※リクエストは、利用者の資料に対する顕在要求の最たるものである。そうした要求が、当該地域の図書館の蔵書を構築していくことを積極的に捉える姿勢が求められる。

4) 選書業務の体制の諸相

◎職員全員での選定

- ・選書会議を設け、合議を経て選定するケース
- ・選書会議はせず、リストチェック、見計らいではスリップチェックで選定するケース。

◎一部の職員で選定

複数館で運営している場合、各館の選書責任者が、集合して見計らい、あるいはリスト選書を合議して選定する。

- ・各館で、選書リストを回覧し、各職員の意見がある程度反映されるケース。
- ・選書リスト、見計らに選書には、各館の選書責任者しか携わず、他の職員は、購入希望図書をリクエストのようなスタイルで責任者に要望するケース。

◎部門別担当者で選定

- ・児童、一般、参考業務というサービスパートで分担して選書をしているケース。
- ・選書リストは全員で回覧しつつも、最終的な調整決定を主題別担当者が行うケース。

（NDCごとに、カテゴリーを設定して担当者を決める）

W2. ケーススタディー

人口3万8千人のA市は、市内にメガソーラー発電所が設置されているということもあり、エネルギー関連の資料がよく利用される。3.11以後、原発事故の影響をさけて自主避難している移住者からは、脱原発関連図書のリクエストが多い。出版点数も多いことから、原発に否定的な資料が相対的に多くなり、かつメガソーラーの関連から、自然エネルギー関連の資料も充実してきている。

T司書は、市内のエネルギー事業にちなんだ資料が相対的に増加することと、リクエストによる脱原発関連資料が増加することは、自然なコレクション形成過程と認識しつつ、原発問題について、一方の立場からの主張を基にした資料が目立つ蔵書構成は、「多様な、対立する意見のある問題については、それぞれの観点に立つ資料を幅広く収集する。」という「図書館の自由宣言」の観点から問題があるとも感じていた。そこで、選書会議の際に、原発容認、推進の立場の資料も購入するよう、提案した。

しかし、同僚からは、資料購入費が十分でない状況で、原発容認、推進関連の資料のニーズが具体的に明らかでないにもかかわらず、わざわざ選定する必要はないのではないかと。むしろ、まだ十分とは言えない自然エネルギー関連の資料を幅広く蔵書に加える方が、現在の住民ニーズにも市の施策にも合致するのではないかと反論された。また、原発容認、推進関連の資料には、科学的根拠が弱いものが多いとも指摘された。

Q. 各グループで、この図書館の司書になったつもりで、議論を続けてみてください。（20分間）

※誕生日が今日9/15に一番近い人が意見交換の司会、誕生日がお正月に一番近い人が発表をしてください。

結論でなくても構いません。複数の対処方法、出された意見を整理して発表してもらいます。

A市 人口38,000人 町域125km²、一般会計160億円、財政力指数0.60、経常収支比率85%
A市立図書館（2,000m²） 2016年開館 蔵書15万冊（うち開架図書8万冊）分館2館
移動図書館1台を市内保育園、幼稚園に巡回（年間貸出の10%）
年間貸出冊数 380,000冊、予約件数25,000件
図書館費 100,000千円（一般会計比0.62%） 図書購入費 20,000千円
職員 館長（正規・司書）、司書（正規）6名、嘱託職員（司書）8名

A. シェアタイム（25分間）グループ発表

各グループで、話し合ったことをプレゼンテーションしてください。3分×7グループ

2. コレクションの評価（資料選定の評価）

集めっ放しではダメ。様々に検討した資料選定の結果が、コレクションとして活かしているかどうかをチェックする。

1) 蔵書回転率調査

蔵書数÷貸出冊数→高いほどよく利用されている。

2) 分類別蔵書回転率

NDC分類ごとに、蔵書回転率を調査する。

※実際の資料選定のアセスメントに活かそうとするのであれば、3桁程度は必要。

※貸出資料の分類多様性という価値の検討

→各主題の資料が、極端な偏りがなく満遍なく利用されている状況。

→多様な興味関心に資料提供が応えている蓋然性が高い。

→多くの市民が利用している可能性がある。⇔実利用率との照合

3) コレクションの評価から見えること

◎ニーズ仮説のヒントが見つかる（分類別貸出回転率調査を眺めていて…）

事例：ある分類の蔵書回転率が、少ない蔵書にも関わらず高い。当該蔵書数が少なく、他の資料と同程度のニーズがあれば、相対的に回転率は上がる。

→【仮説】当該主題の類書を增強すれば、もっと利用が増えるのではないか？

→潜在的に資料ニーズがあるのに、図書館がそれと気付かず類書の手当てが出来ていない可能性。

※実際に棚を見てみたころ・・・（500～509、530～532）

→古い出版にもかかわらず、類書がないため利用されていたのではないか？

仮説：当該図書館には、製造業関連の資料ニーズがある。

→補強調査A町行政統計「就業種別人口統計」と「業種別事業所統計」

※ガラス製造、紙工業を中心に製造業従事者が24%と比較的多かった。

実践：蔵書回転率、行政統計で製造業系の資料ニーズが予想できる。これまで当図書館は、この分野の資料購入が弱かったので重点選書を試みた。

→6ヶ月間、重点選書とコーナー（「二ホンのものづくり」）を展開。

結果、当該分野の貸出が、前年同月非、11%増加した。

成果：当該館の開設期からの職員の言葉

「この地域に製造業関連の資料ニーズがあると思わなかった」

◎社会的ニーズが高いのに貸出があまり動いていない。

状況：発達障害関連の資料※精神医学（493.7）か障害児教育（378）として分類、配架。

仮説：①育児（599）の棚で探していて見つけられない。

②障害児教育という棚に行きにくい。

③精神医学（こころの病）の棚に行きにくい。

実践：児童書コーナー付近に、「子育て応援コーナー」を作り、子育て、家庭教育の本とともに、関連資料を配架したところ、当該分野の貸出が約20%増加した。

～複本について～

◎一図書館内での複本課題

→ リクエスト件数との兼ね合い

◎複数図書館内での複本課題 [資料2、3参照]

a) 各館で当該資料との出会いを作りたい

b) 図書館全体として出来るだけ多くのタイトルを提供したい。

・広範な主題資料の確保

・当該分野の類書の確保 → 図書館ネットワーク活用

※1点もの（文学等）と類書対応可能な主題資料

3. コレクションづくりの仕上げ～配架・陳列～

用意周到に資料を選定し、コレクションとしての完成度を高めたとしても、それが効果的に利用者に伝わり、利用に結びつかなければ意味がない。

1) 配架配列の工夫～前提として考えるポイント～

- ①棚の並び方…何がどんな順番で並べられているか
- ②資料の集合…どんな分野のものがひとまとまりの棚を構成しているか
- ③表示の言葉…ひとまとまりの分野をどんな言葉で表示しているか

◎NDCによる配列では、分散が生じる主題への対処

「コンピュータ」について探すとき

- “007.6” コンピュータ
- “547.4” 通信技術・インターネット
- “582.3” 事務機器・ワードプロセッサ

「マスコミ」について考えるとき…

- “070” ジャーナリズム・新聞
- “361.4” マスコミュニケーション
- “699” 放送事業（テレビ・ラジオ）

※類似主題の傾向

大きな特徴として、6類（応用分野）が上位概念の主題に吸収される。

- 62△系→47△系
- 64△系→48△系
- 67△系→33△系
- 68△系→53△54△56△系

2) コレクションをある文脈で魅せる工夫

◎季節に合わせた展示、記念日、月間、国際〇〇年、時宜の話題（オリンピック等）、地域の行事、社会問題（貧困、少子高齢化、国際紛争）、制度改正（消費増税、マイナンバー制度）、「一箱図書館」（東久留米市→利用者参加型）

【参考資料】

中川卓美 『サインはもっと自由につくる～人と棚をつなげるツール～』
（JLA図書館実践シリーズ33） 日本図書館協会 2017年

4. 「資料収集方針」と「資料選定基準」

存在することがまずは重要。どう活かすかが、いいコレクションづくりのカギ。

◎資料収集方針とは？

当該図書館の資料収集に関する考え方を示したもので、その目的や選択にかかる基本姿勢や留意事項、資料種別による選択の考え方をまとめたもの。

「調布市立図書館の収集方針」

→内部での資料収集の拠りどころであるとともに、住民への説明責任を果たす。

◎資料選定基準とは？

当該図書館における個別の資料選定に際して拠りどころとなる考え方。総則的な基準の

ほか、NDCの百分類程度の細分で選定の目安を示している。

「横浜市立図書館資料収集基準」

→多岐にわたる出版物の多様な主題ごとに、当該館の地域性、館の規模、複数館運営の場合は、その位置づけも踏まえ、選定の方向性を示したもの。

◎児童書について】

・子どもたちに「読んでもらいたい」本を選ぶのか？

・子どもたちが「読みたい」と思う本を選ぶのか？

→ 大きな立ち位置の違い

・どちらが、子どもが主役の本棚か？

・どちらが、本に親しむ子どもを増やせるか？

→ 教育成果に力点のある棚と、多様な本の文化との出会いを重視する棚。

※「利用者を否定しない棚」というあり方

5. コレクションの賞味期限～除架、除籍という資料選択～

1) 浦安市立図書館で実証された「利用減退7年説」

浦安市立図書館の調査では、出版から約7年を経過すると、利用が極端に落ちる事が判明。

→ 除架、除籍、類書買替の目安にしている。

2) 資料鮮度がより問われる主題

◎医療系

医学書テキストブックの改訂頻度がおおむね5年である。

◎コンピュータ、通信技術系

◎法律系（税財政含）

◎農薬便覧系（使用が禁止されるものが随時発生）